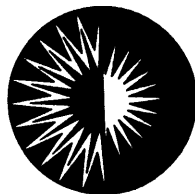




1982年7月 No.14

# 技術開発ニュース



限りある資源を大切に

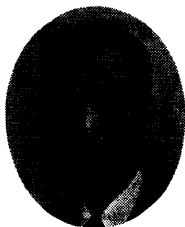
## ▷ 全社技術開発シンポジウム特集号 ◁

### 特別講演

○ 科学界のうらばなし..... 2	○ 変電所におけるガス絶縁機器の動向.....19
○ 現場優秀研究発表 ..... 5	○ ダム設計の考え方について.....23
○ 全社技術開発シンポジウムのまとめ ..... 6	○ 超高压高温火力発電プラントについて.....26
	○ 原子力発電技術の研究開発の 現状と今後の課題.....31
○ 本店特別発表	内外ニュース
○ 建築部門の動向..... 7	○ 第12回IERE (電気事業研究国際協力機構) 総会出席ならびに米国における電力新技術 調査報告.....35
○ 配電新技術の動向について.....11	
○ 系統運用部門における 最近の技術開発について.....15	

## 職人氣質と技術の進歩

取締役 火力担当 服部 弘



リバイバルの影響か、あるいは真にすぐれた技術が再認識された故か、最近日本の伝統工芸がもてはやされるようになり、またこれらの職人に関する伝記などが本屋でも盛んに売り出されている。気の遠くなるような根気と神業に近い技術をもって作り上げられたこれらの工芸品を見ていると、これを作り上げた作者の職人魂に圧倒されるような気持ちになる。私の知り合いの左官職人のKさんもこういった昔ながらの職人の一人である。彼はかつて天皇陛下が名古屋に行幸された時、宿舎であるH館の御幸の間の壁を塗ったというのが自慢の種である。私が今の家を作る時、左官仕事は行きがかり上Kさんをお願いした。Kさんは久しぶりに気の入った仕事をさせてもらえますと喜んでいて。しかし、いざ仕事をさせてみると実に丁寧であり、テンポが遅く、陰で大工がブツブツいうのもお構いなく自分のペースで仕事を進めるのには大工のみならず、頼んだ私まですっかり参ってしまったことを昨日のこのように記憶している。Kさんは、若い頃仕事を覚えるのにどんなに苦労したか、そして近頃の仕事のやり方が如何に好い加減のものかということ始終ブツブツいいながら、仕事になかなかありつけなくて何時もピイピイいっている。こういったことは、私共の職場についても、同じようなことがありはしないだろうか。最近における著しい技術の進歩は、ともすれば私共を置き去りにし勝ちである。

10年も経たないうちに設備が陳腐化してしまいう一方、私共をとりまく技術や設備は時々刻々と高度化し、昨日の夢が今日の現実となるような今日の世相である。私達は、ともすれば自分達の職場のことは、自分達が一番良く知っているんだという自負心におちいり易いものである。自分の仕事に対しこういった自負心を持つことはもちろん必要なことではあるが、一方広く大勢に目を向け時勢の流れにとり残されないように配慮することも、忘れてならないことである。特に最近の計測技術や観測設備の進歩は目を見はるものがある。

こういった設備をできるだけうまく利用し、自分達の仕事の中にとりこんでいくことも自分達の仕事を陳腐化させない方途ではないかと思っている。